

# 故ふれさわ ひろみつ 儀

ふれさわひろみつなくして

芸の道なし

寝ても覚めても、彼の頭の中は「笑い」のことだけでした。芸人として歩むと決めたからには、一番を目指していたのでしよう。生意気さを見事に武器に変え、自分らしい笑いのスタイルを貫きました。私も年下の彼に刺激を受けながら、いつしか様々な仕事をこなすようになりました。

どの現場に行っても、どんな状況に置かれようとも追い求めたのはお客様の笑い。その姿勢を忘れずに突き進む姿は、まぶしくもありました。

しかし、その輝きは周りを際立たせる優しい光になつていたことは言うまでもありません。

歩幅は少々違えど、同じ方向を見据えて歩み続けたこれまでの日々。完璧を求め、妥協やミスを許さぬ「芸人魂」を持っていましたので、たった一度であらうとも遅刻は許せなかったのだと思います。深々と頭を下げ、スタッフや出演者に何度も何度も謝っていた姿が印象に残っています。人に対して厳しく、自分にはもつと厳しく。真の笑いは己を律してこそ生まれる。

そう言わんばかりに生きた彼は、私にとって最高のライバルであり永遠の相方です。

二人で舞台に立つことはもうありませんが、私が詰め甘い仕事をしていれば、見守る彼から厳しく叱られるはず…。「笑い」の真髄を忘れず、向こうでもきつと活躍してくれると信じています。

彼と築き上げた芸人としての誇りを胸に、顔を上げてまいります。

悩み落ち込んだ時には、私の背中を押す風となり励ましてくれることでしょう。

故ふれさわひろみつは、平成〇年〇月〇日、四十二歳にて生涯をとじました。

誰よりも「笑い」を愛し、「笑い」に生きた彼を支えて下さいました皆様へ、深謝申し上げます。本日のご会葬誠に有難うございました。

略儀ながら書状をもつてお礼申し上げます。

平成〇年〇月〇日



葬儀委員長

かみむら

しんや

札幌市〇〇〇〇〇〇〇〇

※本日は何かと混雑に取り紛れ不行届の段悪しからず  
ご了承下さいます様お願い申し上げます